

二 部 地 区 活 性 化 だ よ り

野上川の風

発 行
二部地区活性化推進機構

編 集
総 務 部 会

事 務 局

〒689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二 部 公 民 館 内
TEL・FAX 0859-62-7159



●野上川の風におよぐこい

鯉のぼりのねがい

五月の薫風に 鯉が泳ぐ

かつて 男児の誕生を

祝ってあげた 鯉幟

一役終えて 今一度

野上の川を 川のぼり

威勢 よろしく 通行人へ

こう 呼びかける 何匹も

田んぼ荒すな

川はきれいに

若者たちよ 帰って来いよ

皆んなで 集落を守ろうと

今年初めて保育所前の白濁橋に鯉幟を揚げてみましたが、中々の評判です。今後、各戸に眠っている鯉幟を野上川の橋毎で（県道橋は除外）泳がせ今後の二部地区の活性化に繋がりたいと思います。

二部地区活性化推進機構設立

十年を振り返って

●会長 住田 泰

早いもので、わが二部地区活性化推進機構は皆様と共に、設立後満十年を迎えました。

二部地区に活力を甦えらせようと立ち上げた本会は、住民アンケートや先進地視察等を重ねて、新しい発想での地域づくりに取り組んで参りました。

発足当時は国の政策も、中央から地方へと地方分権が取り上げられました。

そして大きく世間を騒がせた平成の市町村大合併が始まり、福祉や税制の変革もありました。

そしてあの平成十二年鳥取県西部地震が発生し大被害をこうむったことも忘れられません。

まさに激変の十年でした。

更に直近の昨年从今年にかけては、百年に一度という経済危機に見舞われています。

期待された地方分権も町村合併も今になってみれば我々が期待したものと大きくかけ離れた結果をもたらしました。

こうなれば私共は一層自衛の戦略を考えねばなりません。

活性化組織は、最初、県や町の支援を受けて活動を開始しましたが「自助努力」とか「協働」が論じられるようになり、組織自らの財政力の向上を目指すことになりました。

平成十四年からは、地域住民の皆様から会費を募り会費制を導入して、およそ年間二十万円の財力を得ることが出来ました。そしてこの間に取

り組んだ主要事業は、定住環境向上のための上下水道の整備促進、道路、河川の春秋二回の一斉清掃と野上川ヨシ刈りボランティアが定着し、組織内の六部会がそれぞれ当面する課題解決に努力をしてきました。

また二部公民館と連携した年中行事の町民運動会や「たたらまつり」も大仕事の一つです。

しかし昨年実施した住民アンケートに依れば「故郷意識は十年前と大きい変化は見られませんでした。」

その中で未だ本会の活動が充分理解されていない面があること、そして不況時代に対応する副業収入（年間五〇〜六〇万円）の確保等が要望されています。

また年々進行する過疎高齢化問題も無視できません。

そこで昨年一カ年をかけてマンネリ化し始めた事業と組織の見直し検討を特別委員会でも論じ合ってきました。

その結果、組織を構成する委員の数も、集落からの推薦数を二十名増員し八十名の体制が発足しました。

その他二部地区ファンクラブの結成や、青年層、女性層の意見を事業に活かす手法など新規計画を策定中です。

もちろん農林業や集落営農振興も重要課題であり近く新年度の事業計画を策定致します。

また昨年より伯耆町地域再生戦略課からの人材派遣でご支援を頂いていますが、益々連携を強めその成果向上に努めて参る所存であります。

今後、委員各位のご協力はもとより関係機関、地域住民の皆様の絶大なご理解とご支援をお願い申し上げます。

二部地区が美しく輝く地域になりますよう願って止みません。

「たべてごしない二部の味」発送

十二月十八日、活性化推進機構の初の試みとして地元の味を詰め込んだ小包「たべてごしない 二部の味」（ふるさと小包）二部地区出身の県内外在住の方に地元の産品として発送しました。

この企画は、地域の生産者やグループの顔の見える心遣いを届けようと二部の産物を送付したものです。

今回は限定五〇個としましたが、完売となった後も注文があり、商品に対するニーズは地域の方からも多く、二部の産品を知人等にも送りたいといった要望も寄せられました。

今後とも故郷を懐かしんでいただき、地域間交流の証として二部の思い出を忘れないでほしいと思います。

「生産者の顔が見える、心のこもった温かい贈り物」がありとうござい

した。」
といった感想を多数頂きました。

年末の

ふるさと小包の中

身は米・干しいたけ・も

ち・しいたけ醤油・漬け物（やたら漬け・椎茸ピクルス）やまじ味噌で

全て二部地区産品です。

初出荷ということもあり地域の皆様の好意により沢山のプレゼント（古代米・絵手紙・草木染め・押し花）が入った特別仕様でした。

次回の「ふるさと小包」は七月下旬の予定です。

今後の展開が楽しみです。



たべてごしない二部の味発送



第25回

たたらまつり

フォトコンテスト結果

二部谷の風景をテーマに出品いただきました。

今後のご活躍期待您的しています。

最優秀賞 舞 姫

下代 安達 良文さん

入選 金色のじゅうたん

入選 福岡中央 杉原千鶴子さん

入選 天気晴朗 波静か

入選 下代 加藤 正純さん

入選 黄 昏（たそがれ）

入選 二部 吉川 悦子さん

入選 野上川

入選 三部 石田 励次さん

入選 お手伝い

下代 安達 良文さん

廃校を利用した農村交流施設

「森の巣箱」を視察して

●総務部長 田邊 公教

高知県津野町は、県中西部に位置する人口六、八六二人の町で二〇〇五年葉山村と東津野村が合併して誕生した。

旧葉山村に四五世帯、一二人が住む床鍋集落がある。東西に細長い谷間に田畑が連なる小さな集落に、農村交流施設「森の巣箱」があり、廃校となった旧床鍋小学校の木造校舎を改装したこの施設が地域活性化の拠点施設であった。

今はトンネルによって中心部と短時間で結ばれているが、それまでは他の集落と隔絶された、陸の孤島で役場から床鍋集落までの山越えの林道は険しく、過疎高齢化は急速に進んだ。

廃校となった旧床鍋小学校を活用するというアイデアは、以前からあった。

しかし旧校舎を活用して何をするかが課題であった。

「集落で足りないものは何か」を話し合った。「親戚が帰ってきてても、気軽に泊まる所がない」という意見が出た。

そこで、宿泊施設を整備することになった。車のない高齢者が買い物をするところがないという意見もあり、食料品や日用品を買い求められる商店を設置することにした。男性からは「飲むところがない」という意見がでた。居酒屋も併設することにした。「商店で売れ残った食料品をつまみに飲めばいい」との発想であった。

旧校舎を改装した「宿泊施設」兼「集落生協」兼「居酒屋」が誕生した。

施設の名前は、集落を巣立った人たちが気軽に帰ってこられるようにと「森の巣箱」と名付けられた。

校舎の改装は、県の補助事業の採択を受け、県費で全額補助で実施された。

一階は集落生協と居酒屋で厨房、会議室、宿泊者用のシャワー・風呂が設置され、二階は宿泊施設として畳敷きに改装されている。

運営は、住民で組織する「森の巣箱運営委員会」が、町から無料で指定管理を受け、住民の自主的運用に任されている。運営資金は部落会計から四〇〇万円借り入れ、従業員は2名で常勤一名、パート一名で運営している。

この施設が住民の憩いの場であると同時に毎年六月に実施される「蜚祭り」は集落人口の約十倍近くの一、五〇〇人の集客があり地域間交流の場となっている。

集落生協も高齢者だけの需要では成り立たない、そのため住民全員で商品を世帯当たり月二、〇〇〇円～五、〇〇〇円買い支えることが取り決められている。

しかし、トンネルができて交通の便が良くなってきたため売上が減少しつつあり今後の課題となっている。

また、この事業の成功には行政の厚い支援も見逃すことができないことをつくづく痛感した。



二部地区ファンクラブ

二部地区ファンクラブアンケート結果

(単位:%)

二部地区ファンクラブへの加入について	1. 加入する	73.0
	2. 加入しない	27.0
	3. 無回答	8.1
「ふるさと小包」の送付を希望しますか	1. 希望する	51.4
	2. 希望しない	40.5
	3. 無回答	8.1
二部地区で開催されるどんなイベントに参加したいですか(複数回答)	1. 農業体験	5.4
	2. 林業体験	0
	3. そば打ち	14.3
	4. 炭焼き	1.8
	5. 大山山麓山菜採り	14.3
	6. きのご鑑定会	16.1
	7. 出雲街道散策	7.1
	8. 文化振興	3.6
	9. 二部地区散策	12.5
	10. 豆腐づくり	10.7
	11. 盆踊り	5.4
	12. 収穫祭	0
	13. その他	8.8
二部地区には年に何回ぐらい帰省されますか	1. 0～1回	24.3
	2. 2～3回	16.2
	3. 4回以上	40.5
	4. ほとんど帰らない	16.2
	5. 無回答	2.8

二部活性化推進機構の重点課題として取り組んできた「二部地区ファンクラブ」のアンケートの集計結果がまとまりました。

このアンケートでは、二部地区出身者の方を対象に地域情報の提供(広報誌・イベント情報案内)希望の有無を確認し、今後開催する事業に関する提案、提言などを頂くことで事業の参考とし更なる活性化推進を図ることを目的としました。

今回、82名の方に送付した結果37名の方から回答を得て加入を希望された方は27人でした。

自由記入欄では「二部地区の発展と会員の活躍を祈ります」等の有り難い言葉も頂きました。

今後も二部地区の情報発信に努めていきたいと考えます。アンケート結果は次のとおりです。

たたらまつりを 終えて

●二部公民館長 石田 励次

二部公民館、二部地区活性化推進機構の一年の集大成であるたたらまつりが、二月二十八日から三月二日の三日間開催されました。

天候にも恵まれ、過去最高の六七三人の人数で賑わいました。

初めて、会に関わり企画立案、準備そして開催日を迎える中でまさに、二部地区の団結力というか、底力を垣間見た様な気がします。

特別展では、昔を偲びできる限り忠実に囲炉裏を再現しようとする姿、また、展示に係る器の収集にしても、あそこにあると聞けば、直ぐにみせてもらう行動力と大切な物を貸し借りできる絆の強さを感じました。

鑑定団に出せば何十万もしそうな高値の皿や器は、「いい仕事していますね」と皿をたたいてみるそんな衝動にかられました。



囲炉裏の側では、飛び入りでハーモニカの演奏が流れ、今では忘れかけていた囲炉裏の温もりと家族の愛情が伝わってくる様でした。

また、集落で造った大作・力作・種配布、

ちょっとした心使い、新しい試みとして古新聞で作ったエコバッグ、パソコンによる写真の風物詩、など展示においても、各同好会作品の技術力の高さを改めて感じました。

屋外の農産物販売、小豆のご提供によるぜんざい、いづれをとっても真心のこもったもので、誰かの指示により起こす行動ではなく、自ら進んでお客様の立場に立った自発的なサービスの提供等、二部地区の住民の方の心意気を本当にありがたく思いました。

そして、二部地区活性化推進機構十年の歩みは、少子高齢化によりこれわれそうな集落をまとめ、共に喜びを分かち合うための様々な工夫と実践そのものでした。

昨年末には、ふるさと小包便「たべてごしない二部の味」限定五〇個が完売。絵手紙・巾着袋・紅葉・いちよう等も添えられ、農産物と共に二部の香りを詰めた小包が都会に届けられ、喜びの声を多数頂きました。その中でみな故郷を愛する気持ちは変わらないことを改めて感じました。今後の課題として、前進し続ける作品展示、特別展示を見ると、次の展示がむずかしくなるのではという心配もあります。

反省会の中で、出来る限り若い方も実行委員になって頂き共に企画・立案に携わってもらえたらという意見もありました。古きをたずね新しきを知り趣向をこらし、年々進化する「たたらまつり」がいつまでも「地域の宝」として継続していくことを切に願っています。

活動日誌メモ

平成二十年

(月日) (内 容)

- 十、二四 二部地区ファンクラブアンケート 送付
- 二二 福祉ボランティア活動 五名参加 とつとり花回廊
- 二三 中山間地域リーダー養成研修 倉吉交流プラザ
- 三二 ファンクラブ部会
- 十一、二 二部地区アンケート報告会 「知の財産」
- 七 ファンクラブ部会打合せ
- 八 二部地区運動会準備 (健康スポーツ部会)
- 九 二部地区運動会 (健康スポーツ部会)
- 二二 二部小学校グラウンド 道路河川一斉清掃(後期)
- 二五 二四五名参加 二部地区周辺 福祉ボランティア部会打合せ
- 二六 ファンクラブ部会打合せ
- 十二、五 防災講演会・区長協議会出席
- 八 産業振興部会
- 一五 福祉ボランティア部会介護講座 説明会 畑池・下代公民館
- 一八 ふるさと小包発送 (五〇箱限定完売) 二部公民館
- 一八 活性化推進機構役員会

平成二年

(月日) (内 容)

- 一、八 たたらまつり特別委員会
- 一九 ファンクラブ部会反省会
- 二、三 産業振興部会
- 一七 区長協議会出席
- 二、二三 たたらまつり特産品販売打合せ
- 二四 介護講習会下代公民館
- 二八、三、一 たたらまつり特産品販売 (産業振興部)
- 三、二 総務部会打合せ
- 三 介護講習会 畑池公民館
- 四 「知の財産」意見交換会 (保護者世代)
- 一一 介護講習会 福岡三区つどい
- 一三 たたらまつり反省会
- 一七 産業振興部会
- 二六、二七 (盆花販売・部会打合)
- 二六、二七 県外先進地視察(高知県津野町)

あとがき

春の農繁期も終り今年も豊作を期待したいと思います。また、町議会の改選で選挙も終わり、新しい議会体制も決まりました。当選された町会議員さんの活躍にも大いに期待したいと思います。経済不況もまだまだ続いており景気の回復も願わずにはいられません。